

### 奈良文化財研究所 本庁舎新営現場も

大建協、37人参加

大阪建設業協会(大建協、奥村太加典会長)は16日、大阪府立今宮工科高校建築系建築専科2年生37人を招き、鴻池組が施工する「奈良文化財研究所本庁舎新営その他工事」(奈良市二条町)の建設現場で見学会を開いた。

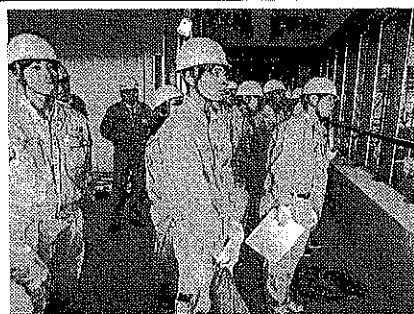
最初に同社の内部博信所長が、建築概要や平面計画を解説。建物が2棟構成になった経緯として、試掘調査で計画地周囲に遺構が発見されたため、遺構を避け

るために南北2棟の配置になったことを説明した。

その後、一行は2組に分かれて北棟と南棟の各フロアを見学。北棟4階では壁断熱の施工状況、3階では施工後の庇(ひさし)の様子をガラス窓越しに観察した。同棟地下部では施工段階の書架室、施工がほぼ完了している南棟ではフロアリングや天井クロス、壁面などの内装を見学した。

質疑応答では高校生が「仕事で一番心掛けていることは」と質問し、社員は「協力会社や施主、設計者との意思伝達」と回答。「現場のコミュニケーション

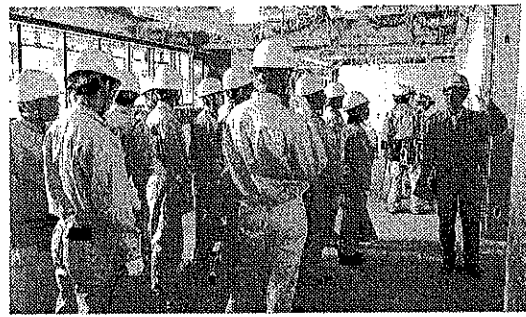
屋内から庇を見学



ンの構築で心掛けていることは」との問いには「最初は『ご安全に』のあいさつから関係を築くこと。知らない者同士でもあいさつをきっかけに会話が生まれる」と答えた。

最後に生徒代表が「作業員全員が責任感をもって現場で技術を活用していることを実感した。見学会で学んだことを今後に生かしたい」とあいさつ。

同研究所新庁舎の規模はSRC・S造で北棟が地下2階地上4階、南棟が地上2階建て、総延べ11387平方メートル。設計は日本設計。付帯工事では電気設備をトーンエネック、機械設備を不二熱学工業、CT設備を日立製作所が担当している。16年5月に着工し18年3月の完成を予定。17年9月末現在の進捗よく率は約55%となっている。



# 奈良文化財研究所 本庁舎で現場見学会

大建協

大阪建設業協会は16日、奈良市内で高校生を対象とした現場見学会を開いた。写真。大阪府立今宮工科高校建築専科の2年生37人が、奈良文化財研究所本庁舎新営その他工事(施工工鴻池組)の現場を訪れた。

内部博信所長から工事概要を聞いた後、2班に分かれて現場の各所を見て回った。生徒たちは施工中の建物内部に入り、内部所長らから説明を受けながら熱心に見学した。最後に現場事務所に戻り、内部所長らが生徒からの質問に答えた。「仕事で一番心がけていることは」という質問

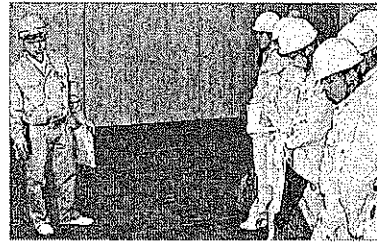
には、「社員や職人とのコミュニケーション」と答え、コミュニケーションにおいて大切なこととして「まずはあいさつすること。現場監督は数百人の前で朝礼をする。知らない人にも元気よく大きな声であいさつすることから入るのが一番」と話した。「貴社の一番好きなところは」という問いには、「風通しが良く、何でも話せる」と答えた。

研究所発注の同工事の規模は、RC+S造、北棟が地下2階地上4階建て、南棟が2階建てで、総延べ1万1387平方メートル。設計は日本設計が担当した。  
2016年5月に着工し、現時点の全体の進捗率は58%。北棟は55%で、地上階の内装工事に着手したところ。南棟は95%で、内装工事が終わりつつある。18年3月末の完成を目指している。建設地は奈良市二条町2-9-1。

文化財研究所本庁舎で現場見学会

建築系建築専科の高校生37人参加 大建協

大阪建設業協会は16日、奈良県奈良市の奈良文化財研究所で工事を進めている奈良文化財研究所本庁舎新営その他工場の現場見学会を開催した。大阪府立今宮工科高等学校建築系建築専科2年生37人(内女性3人)と引率教員2人が参加した。現庁舎は、老朽劣化や貴重な資料、図書等の増加による狭小化の影響から、調査研究に支障をきたす状況にある。さらに、耐震診断の結果、大規模地震に對して倒壊等の危険性があると判定されている。そのため、現庁舎敷地での建替工事を実施している。見学会は、鴻池組の内務博信所長が工事概要について説明した後、2班に分かれて、普段は目に



することが出来ない大規模な建築工事現場を興味深く見学した。見学会後、生徒が「仕事で一番心がけていることは何ですか」「都市計画道路拡幅

予定位置の意味、役割とは何ですか」「高校の間に取るべき資格はありますか」などと質問した。

奈良文化財研究所本庁舎新営その他工事(奈良市二条町2-9-1)の敷地面積8878.94平方メートル。規模は北棟SRC造、南棟SRC造、地下2階地上4階建及び南棟SRC造、北棟SRC造、地下2階地上4階建、延べ面積2806平方メートル(建築面積2812.45平方メートル)。高さ14.99メートル、深さ12.05メートル、階高3.55メートル(最大6メートル)。用途

地域は第1種住居地域、主要用途は大学(単体規定)、研究施設(集団規定)。工事進捗率は58%。工期18年3月30日。総工事費は約50億円(電気設備工事、機械設備工事、CT設備工事を含む)。発注者は、奈良文化財研究所、設計は日本設計、監理は内藤建築事務所、施工は鴻池組(建築工事)、トリエネット(電気設備工事)、不二熱学工業(機械設備工事)、日立製作所(CT設備工事)が担当。

予定位置の意味、役割とは何ですか」「高校の間に取るべき資格はありますか」などと質問した。

# 奈良文化財研究所本庁舎に今宮工科校生

大建協が高校生対象の現場見学会

## 大深度地下部や意匠凝らした外壁など

一般社団法人大阪建設業協会は十六日、建設が佳境を迎えている「奈良文化財研究所本庁舎新築工事」(奈良市二条町二九九一、発注者・独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所)において高校生を対象とした現場見学会を行った。参加したのは大阪府立今宮工科高等学校の建築系建築専科二年生三十七人(男子三十四人、女子三人)と引率の教員二人。同校からバスで現場に向かい、平城宮跡に隣接して設けられる新施設は、我が国の文化財研究をリードする総合的、先進的研究の拠点として十以上の深さの地下部や頑丈な厚の収蔵庫、特殊な意匠の外壁など、通常とは異なる建築物に、生徒らは興味を感じていた。



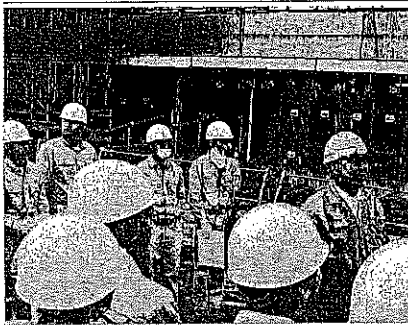
見学会を前に工事概要を説明する内部現場代理人

同施設の地下は建築一事が鴻池組大阪本店、電気設備工事がトイエック、機械設備工事が不二熱工業。そしてCIT設備工事を日立製作所がそれぞれ担当。また設計は日本設計、監理は内藤建築事務所が行っている。工事は昨年五月から始まり、工期は三十二年三月二十日。地下二階(地上四階(北棟))、地上二階(南棟)の躯体はすでに概成しており、内外間を記録している(11月分)分かれて見学。見学会はまず、現場事務所(鴻池組)の地下部から順に進められ、1日時点)。

### 建築の鴻池組ら来春目指し工事佳境へ

組の内部現場代理人から工事の概要等が説明された。

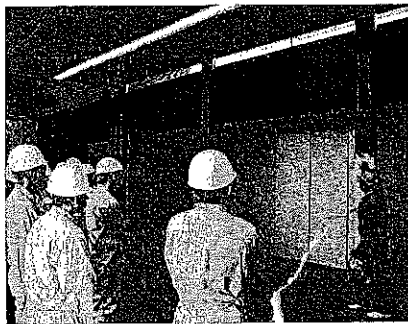
見学会では、風例の深さの施工(GLマイナス10)となった。北棟地下二階の階高(6)の書庫における支保や型枠、地下一階のCIT装置室、ドライエリアを見て回り、ポトド壁の仕上げが進む四階(研究等)では、施工担当者による資機材等を搬入するステップの説明が奈良市の景観条例により、明も行われた。



建設中の施設前に集まり、いざ現場へ



特殊な仕上げの外壁に触れる生徒らも



大会議室にも足を運んだ



奈良文化財研究所本庁舎の完成パース

また、この階では、風周辺では地区により七十センチ、別途厳格な制限もありの高さに建

り十五センチ(平城宮跡)二・三階の重要な文化財等を保存する収蔵庫では銀行の大金庫と同様の制限がかかれている。外壁に施された杉板本実型枠コンクリ化粧打放し、木格子の仕上げなどが目を引いた。

このほか、大会議室の天井吸音板や鉄板を差いたスリムな意匠の柱など、南棟も見回り、再び現

場事務所へ。内部現場代理人が、生徒からあらかじめ出されていた質問に答える場では、「施工管理という仕事をめざすには、十分たどらなければならない」と答へ、生徒代表が見学会への感謝の言葉を述べ、「無事工期通り施設の引き渡しを終える時の心算でもある休日の問いを終えた。

「喜び」と答へ、また「年に十回、祝日のほか、仕事内容に見合ふアパサリ休暇が年々増えていきますか」とは、さ間十日あることを説明したが苦笑しながら「上明した。最後に、生徒代表が見学会への感謝の言葉を述べ、無事工期通り施設の引き渡しを終える時の心算でもある休日の問いを終えた。

今宮工科  
の2年生

# 「奈文研新宮工事」を見学

大建協が現場見学会



施工が終わった天井部分を見上げる生徒ら

大阪建設業協会（奥村太加典会長）主催の高校生を対象とした現場見学会が、鴻池組が施工する「奈良文化財研究所本庁舎新営その他工事」の作業現場で開かれた。大阪府立今宮工科高校建築専科2年生37人と教諭2人が参加。目撃を目にする事ができない建設現場を見て回った。

現場の案内役を務めた鴻池組・内部博信所長は、「若い子には現場を肌で感じ、建設業界に興味を持ってほしい」と話した。見学後には質疑応答が行われ、生徒から仕事のやりがいや年収、給料、休日など幅広い疑問が投げ掛けられた。

# 12月 | 日(金) 建設工業

都島工高生58人がエンド  
商事配送センター見学

大建協、設計・  
施工は三和建設

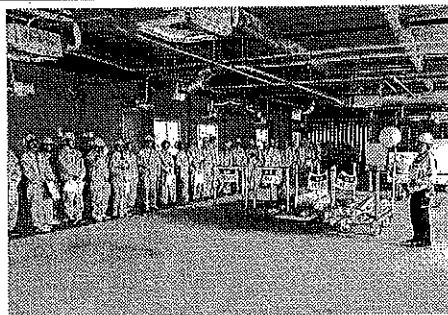
大阪建設業協会(大建協)は11月27日、大阪市立都島工業高校建築科1年生58人を招き、「エンド商事株式会社配送センター新築工事(第2期工事)」(大阪市生野区)の建設現場で見学会を開いた。設計・施工とも三和建設(大阪市淀川区)。最初に三和建設の現場代理人・北本仁氏が建築計画

や施工方法などを説明。

続いて一行は施設2階に移動し、内装工事などの様子を見学した。写真。

その後、高校生は「現場監督の仕事は」「必要な知識や技術とは」「やりがいを感じる時は」「学生のうちに身に付けるべきことは」などと質問、社員が丁寧に答えていた。

配送センターの施主はエンド商事(大阪市生野区)。規模はS造2階建て延べ6096平方メートル。第1期工事は16年8月に着工し、今年



3月に完成。現在施工中の第2期工事は4月に着工、18年2月の完成を目指している。

11月30日(木)

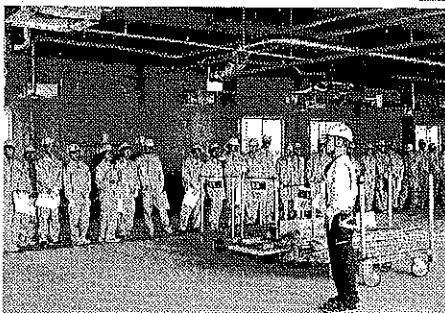
# 建設通信

## 都島工高生徒が配送センター現場見学

大建協

大阪建設業協会(奥村太加典会長)は27日、高校生を対象とした現場見学会を開いた。写真。市立都島工業高校(大阪市)の建築科1年の生徒と教諭約60人が、エンド商事配送センターの現場を訪れた。

同工事は業務用食品や外食産業向け食材などの製造・販売を手掛けるエンド商事(本社大阪市)の配送センターを建設するもので、規模はS造2階建て延べ6096平方メートル。三和建設の設計施工で2016年8月に着工した。現在は2期工事中で、18年2月末までの全体完成を目指している。建設地は、生野区巽南2-1-6。



三和建設の施工スタッフの案内で現場に入った生徒らは、興味深い表情で説明に聞き入っていた。見学後は生徒側から「現場監督の仕事とは」「現場で大切にしていること」は「学生のうちに身につけておくべきこと」などは「さまざまな質問が寄せられ、担当者が丁寧に答えていた。最後に生徒代表が「見学で学ん

だことを生かせるようにしたい」とお礼の言葉を述べて終了した。

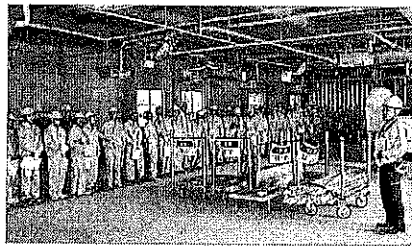
11月29日(水)

## 建設産業

### エンド商事配送センターで現場見学会

#### 建築科の高校生が参加 大建協

大阪建設業協会は27日、大阪市生野区で建設を進めている「エンド商事株式会社配送センター」新築工事（第2期工事）の設計・施工（三和建設）の現場見学会を開催した。大阪市立都島工業高等学校建築科1年生58人と引率教員4人が参加した。見学会は、工事担当者から工事概要や施工手順



などの説明を受けた後、

内装工事等を行っている2階の事務所フロアなどを熱心に見学した。見学会後、生徒は「現場監督という職種はどのような仕事をするのか」「現場で大切にしていることは」「仕事で一番のやりがいは何かなど質問した。エンド商事配送センターの規模はS造2階建延6096・10平方メートル（建築面積3213・31平方メートル）。建物の最高高さ12メートル。建設地は大阪市生野区巽南2-1-6。



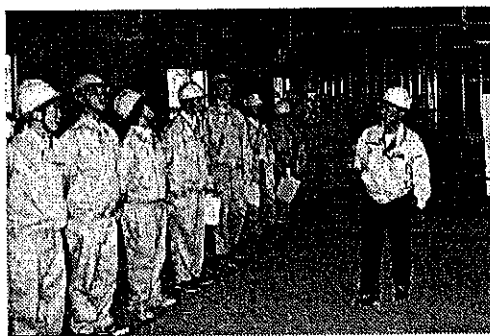
# 佳境の配送センター工事をしつかりと

## 大建協見学会に都島工業建築科の生徒ら

(一社)大阪建設業協会は十一月二十七日、大阪市立都島工業高等学校建築科の生徒を対象にした現場見学会を行い、一年生五十八人(うち女子四人)と引率の教員四人が参加した。訪れたのは、三和建設(森本尚孝社長、本社・大阪市淀川区木川西二)が設計施工を担当する「エンド商事株式会社配送センター新築工事(第2期工事)」(大阪市生野区巽南二、神崎一幸所長)の現場で、午後一時から約二時間かけて、終盤を迎える工事の状況を見学した。



工事概要の説明を受ける生徒ら

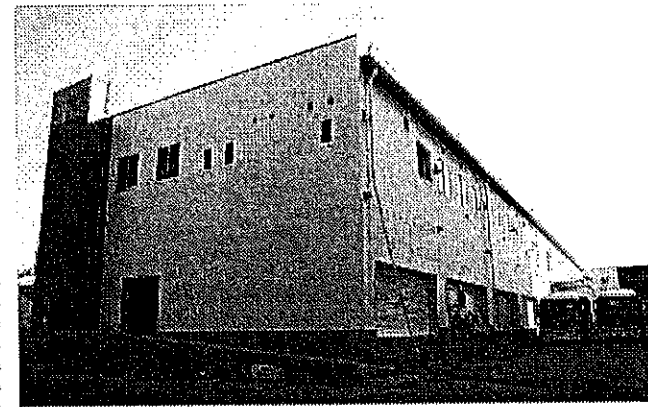


北本副所長が壁や天井の素材等を説明した(2階)

バスで現地に着した。稼働していることや、一二回の配送センター生徒ら一行は、建設中のその後始まった二期工事は、躯体はもろもろ、内配送センター一階に設けの概要、さらに基礎工事外装も大詰めを迎えておられた説明会場に集合。から躯体が建ち上がるまで、この日は軽量鉄骨下北本副所長が説明にあでの施工手順をパワーポイント(IGS)や、照明設置たり、三和建設の施工で、イントで解説した。のたのめケーブルラックすでに同現場の南側の1S造二階建て延べ六、の吊り込みなどが、説明期施設が今年三月に完成〇九六平方、最高高さ中も一階部分で行われて

おり、事務所機能が入る基づく話が随所に盛り込まれ、生徒らは納得。最後(フリーアクセスフロア)後に生徒代表によるお礼の施工に入る直前の状況の言葉で見学会を締めくくった。

再び一階に戻り、質疑応答のコーナーでは生徒す同現場では、無災害三から事前に出されていた万八千時間を目標に、す二十二の質問の一つひとつで二万五千四百九十六つに北本副所長が丁寧に時間(11月25日時点)の回答。監督する立場として安全を誓っている。



来年2月末の完成を目指し工事が進む「エンド商事株式会社配送センター新築(第2期)」

て現場での不安全行動を徹しくチェックしていることや、その一方で現場の空気を良くするのは「笑顔でしつかりと挨拶すること」など、経験に



都島工業  
の1年生  
三和建設の民間現場を見学

大建協が高校生現場見学会

大阪建設業協会（奥村太加典会長）主催の高校生を対象とした現場見学会が三和建設施工の「エントラ商事株式会社配送センター新築工事」現場で開かれた。大阪市立都島工業高校の建築科1年生58人が参加し、建設が進む民間施設を見て回った。

写真。

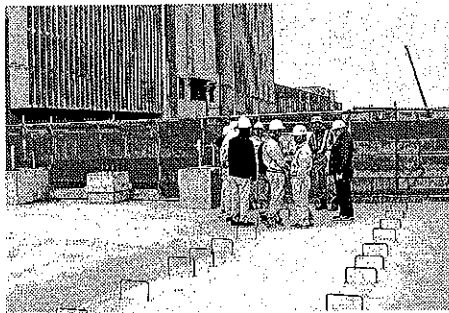
現場は大阪市生野区にあり、2016年7月から1、2期に分け鉄骨造

2階建て延べ6096平方分の配送センターを建設中（現在2期目）。生徒らは平面プランや構造、工事概要の説明を受けた後、北本仁現場代理人の案内の下、日頃目にすることができない現場を肌で感じていた。

# 工科高生招き見学会

## 鴻池JV施工の鉄道連立化

大建協



大阪建設業協会(大建協、奥村太加典会長)は1月31日、大阪市と阪急電鉄が東淀川区柴島1〜東淡路2で事業を進めている「京都線・千里線淡路駅周辺連続立体交差工事のうち土木関係工事(第6工区)」「施工Ⅱ(鴻池組・竹中土木・青木あすなろ建設)」で現場見学会を開いた。大阪府立布施工科高校建築設備系建築システム専科2年生36人が参加し、高架構造物の施工状況を間近で見た。写真。

最初に同JVの小野田憲一所長(鴻池組)が「第6工区では鉄道が道路と連続して交差できる土木構造物をつくっている。皆さんも今春から就職活動を行うことになると思う。きょうはゼネコンが施工する現場のイメージを持ってもらい将来を考える機会にしてほしい。見学に同行する技術スタッフにはどんなことでも遠慮なく質問してください」と語り掛けた。続けて連続立体交差事業や同工事の概略を説明し「事業区間の踏切を解消することで地域を活性化できる」などと話した。同JV職員は映像を示しながら連立工事の全体概要や同工区の施工内容、進ちよく状況などを解説した。

その後学生たちは4班に分かれ、既設高架橋補強工事や仮線工法による高架構造物工事が進む起点(淀川)側や別線工法で高架駅などを整備している中央部、仮線工法(平面式)の工事が進む終点(淡路駅)側に移動し、構築された高架構造物上部などを職員の説明を聞きながら見学した。

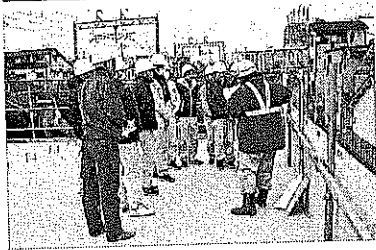
見学会終了後の質疑応答では、学生が「工事中に契約額を超える状況があった場合、どのような対応を行うのか」「月々の給料は」「配属された現場に完成するまで勤務することになるのか」などと質問、職員が丁寧に答えていた。

同連続立体交差事業は阪急京都線・千里線の淡路駅付近の約7・1キロの鉄道を高架化し17カ所の踏切を除却するプロジェクト。場所は京都線(延長3・3キロ)が東淀川区上新庄1〜東淀川区柴島1で、千里線(延長3・8キロ)は吹田市南清和園町〜東淀川区柴島2。現在地上にある崇禅寺駅と淡路駅、柴島駅、下新庄駅も高架駅になる。1994年の都市計画決定から約24年が経過した。事業の全体的な完成時期は27年度末。

同工区は柴島駅付近の高架構造物などを施工中。工事延長は1240メートル。08年8月に着工し、25年3月の高架線への切り替えを目指す。

布施工科高中生招き現場見学会

阪急京都線・千里線連続立体交差事業 大建協



大阪建設業協会は1月31日、大阪市と阪急電鉄が阪急京都線・千里線連続立体交差事業として進めている「京都線・千里線淡路駅周辺連続立体交差工事のうち土木関係工事(第6工区)」の現場見学会を開催した。大阪府立布施工科高等学校建

築設備系建築システム専科2年生36人と引率教諭3人が参加した。施工は鴻池組・竹中土木・青木あすなろ建設J.V。

見学会の冒頭、小野田憲一所長は「現場を見ていただいて、自分が気になることなど質問をしてほしい。自分の将来を考えていくためにも就職先のひとつとして建設業を選んでほしい」とあいさつした。工事概要の説明を行った後、4つのグループに分かれて営業線の間近で工事を進めている現場を熱心に見学した。阪急京都線・千里線連続立体交差事業は、阪急

京都線事業区間(大阪市東淀川区上新庄1〜柴島1)延長3.3キロ、阪急千里線事業区間(吹田市南清和園町〜大阪市東淀川区柴島2)延長3.8キロの合計7.1キロにおいて崇禅寺駅、淡路駅、柴島駅、下新庄駅を含む4駅を高架化し、17か所の踏切を除却する。事業区間を8つの工区に分け、08年度から、順次工事着手している。24年度高架切替、27年度の事業完了を予定。同工区は、大阪市東淀川区柴島1〜東淡路2付近の延長1.24キロで工事を進めている。柴島駅は島式ホームとなる。起点側は高架仮線工法、中央部は別線工法、終点側は平面仮線工法で行っている。工期26年3月31日。

# 佳境の鉄道工事最前線に布施工科高生

## 大建協見学会 阪急京都線・千里線淡路駅周辺連立

(一社)大阪建設業協会(奥村太加典会長)主催による高校生を対象とした現場見学会が三十一日、大阪市東淀川区柴島の「阪急電鉄京都線・千里線淡路駅周辺連立立体交差工事のうち土木関係工事(第6工区)」(施工I:鴻池組・竹中土木・青木あすなる建設J.V)の工事現場で行われた。今回は、大阪府立布施工科高等学校建築設備系建築システム専科二年生の生徒三十六人(引率教員三人)らが参加した。



まず、作業所を代表して、小野田憲一所長が挨拶に立ち「皆さんは、今年の春から就職活動をすると思うが、本日は建設業が実際にどのような仕事をするかを理解するための良いチャンスなので、疑問に思ったことを積極的に聞いてほしい」と呼びかけた。

そして、工事概要等の説明を受けた後、現場内に入った。

生徒達は、スタッフの案内で、仮線敷設、高架すく横を電車が往來する中での工事には細心の注意が求められる

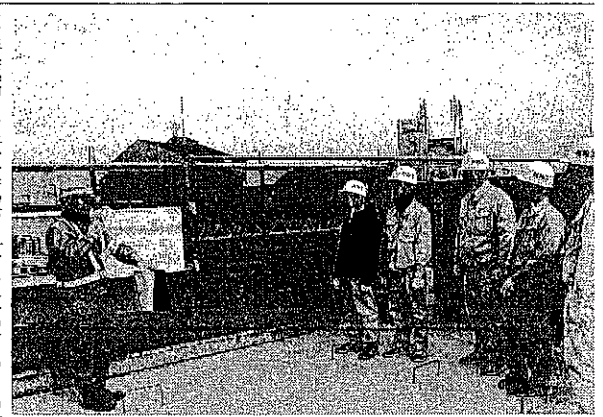
### 振動・騒音等から第三者守る配慮など 様々な質問 建設業への関心改めて

横を電車が行き來する中での作業であることから「作業員の安全確保はもちろん、電車の運行を妨げないようにするのが、我々の役割。また、周辺に民家が建ち並んでいるので、振動、騒音等、第三者災害の防止に注意しながら仕事を進めている」との説明を受け、都市土木を進める上での気の配り方に注目した。

生徒達から「仕事は厳しいか」「今の会社を選んだ理由は」等の質問が寄せられ、それに対し「タツフは、どんな仕事も厳しいことは間違いなく、しかし以前と比べて、働きながら作業の様子を見ることが、いろいろな調べてみて関心を持った会社には

### 2024年度末の高架化目指し 着工から10年7.1キロに8カ工区総力

大阪市(事業主体)と庄駅付近三・三キロ、千里線淡路駅(施工主体)が里線柴島駅付近一吹田駅進める、「阪急電鉄京都線・千里線淡路駅付近連立立体交差事業」は、阪道路や側道の整備を推進。事業完成後は崇徳寺、急京都線・千里線の淡路進。事業完成後は崇徳寺、駅付近の約七・一キロ(京淡路、柴島、下新庄の四都線崇徳寺駅付近)上新一駅が高架駅になり、周辺



普段は入れない建設中の高架構造物に上がり説明を受ける生徒ら

れ、線路で分断されている。このうち第6工区は、線路の流れを円滑にする効果が期待できる。高架切り替え時期は、二〇二四年度末の予定で、全体が完成するのは、二〇二七年度末となる見込みだ。

出来高は約四割十五万三千三百三十

工事は、二〇〇八年九月に着手。全八カ工区に事故無災害を継続

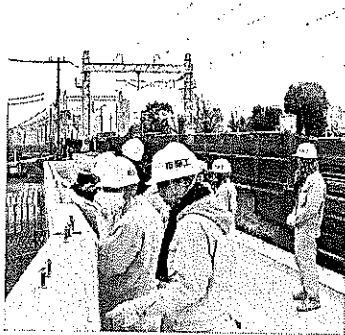
り、このうち第6工区は、線路側の起点と高野駅付近一淡路駅延長一、二四〇キロを担当し、柴島駅化する。

### 第6工区 鴻池組・竹中土木・青木あすなる建設J.V

布施工科の2年生36人

# 阪急連立を見学

大建協主催



大阪建設業協会（奥村太加典会長）主催の高校生を対象とした現場見学会が1月31日に行われた。布施工科高校の建築

設備系建築システム専科2年生36人が参加。鴻池組・竹中土木・青木あすなる建設JVが施工する「阪急京都線・千里線淡路駅周辺連続立体交差工事のうち土木関係工事（第6工区）」の作業現場を見て回った。写真。

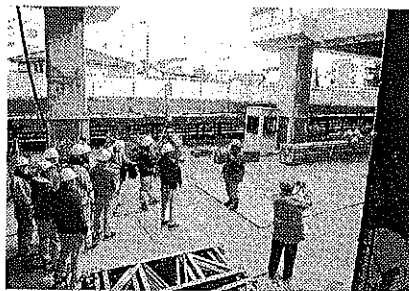
一行は、現場事務所です。見学後の質疑応答では、生徒から「給料や休日ほどぐらいいあるのですか」「仕事は楽しいですか」など、素朴な疑問が現場で働く現場作業員に投げ掛けられた。同JVの小野田憲一所长は「建築と土木、分野に違いこそあれ、ものをつくるという意味では同じ。現場の雰囲気を知り、建設業に興味を持ってほしい」と次世代を担う若者を前に魅力を伝えた。

## 布施工高生が連立 事業の現場を見学

大建協

大阪建設業協会（奥村太加典会長）は1月31日、高校生向けの土木工事現場見学会を開催した。府立布施工科高（東大阪市）の生徒と教諭ら約40人が、阪急電鉄京都線・千里線連続立体交差事業の現場を訪れた。

一行が訪れたのは、同事業の8つの工区のうち、柴島駅（大阪市東淀川区）周辺の土木工事を行っている「第6工区」で鴻池組・竹中土木・青木あすなろ建設JVが施工を担当している。見学に先立ちあいさつ



に立った同JVの小野田憲一所長は、「見学を通じ現場の雰囲気を感じてもらい、進路の1つとして建設業を考えてもらえたらうれし

い」ど生徒に向けエールを送った。

事務所では概要説明を受けた後、現場内を見学。同工区の長さは1240m。柴島駅を中心に仮線工法と別線工法による高架化が進む。安全な鉄道運行を妨げないよう細心の注意を払いながら工事に取り組む作業員たちの姿に、参加した生徒らは感心した様子だった。

同事業は延長7.1kmにわたる鉄道の高架化工事区間内17の踏切を除却するほか、崇禪寺・淡路・柴島・下新庄の4駅も高架化される。2008年から高架工事がスタートし、27年度の事業完了を目指している。